

習志野市教育委員会会議録 (平成23年第2回臨時会)

- 1 期 日 平成23年8月3日(水)
習志野市教育委員会事務局2階会議室
開会時刻 午後3時00分
閉会時刻 午後5時00分
- 2 出席委員 委員長 青木 克己
委員 星野 龍子
委員 澤村 洋子
委員 鈴木 大地
委員 植松 榮人
- 3 出席職員 教育総務部長 柴崎 一雄
学校教育部長 押田 俊介
生涯学習部長 藤田 勉
学校教育部参事 加藤 清一
学校教育部次長 江口 和夫
企画管理課長 飯島 稔
学校教育課長 小熊 隆
指導課長 長安 誠

4 会議内容

委員長が

平成23年習志野市教育委員会第2回臨時会の開会を宣言

委員長が

本日の日程について諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

委員長が

会議規則第15条の規定により、議案第26号を非公開とすることについて諮り、全員異議なく非公開と決定された。

議案第26号 平成24年度使用教科用図書の採択について
(小学校、中学校及び特別支援学級使用の図書)

(指導課)

指導課長が

平成24年度使用教科用図書の採択について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条の規定に基づき、学校教育法第34条及び附則9条に規定され、さらに習志野市教育委員会行政組織規則第3条第1項第16号に規定する、平成24年度に中学校で使用する教科用図書及び特別支援学級で使用する一般図書の採択をお願いするものである。

本年度は、平成24年度に中学校で使用する16種目の文部科学省の検定を経た教科用図書と特別支援学級で使用する一般図書について、葛南東部採択地区協議会で調査や協議を行った。

調査内容は、「内容」「組織・配列」「表現」「造本」の4つの視点で行われ、これまでの指導の連続性・学びの連続性や地域の特性、教科書の特徴等を十分に考慮して公正かつ公平に選定が行われ、その結果として16種目の教科用図書が選定された、と16種目の教科用図書選定理由について概要を説明。

また、特別支援学級で使用する教科用図書については、文部科学省著作権の教科書及び学校教育法附則9条の規定による新たに県が採択した一般図書6冊が選定された。平成24年度に使用する小学校の教科用図書については、昨年度採択された平成23年度と同一の教科用図書を使用することになっている。

なお、本日の採択結果は、9月1日に千葉県教育委員会が報道発表並びにホームページに掲載され開示されるとともに、葛南東部採択地区協議会においても、開示請求があった場合は、その請求に応じて公開することとなる、と概要を説明。

委員が

国語について、今日的な話題や身近な題材とはどのようなものか。また、指導要領の改訂により言語活動についての言及があるが、どのようなものがあるか、と質問

指導課長が

例えば、今日的な話題として「メディアと表現」という単元で「ハリー・ポッター」を扱ったり、身近な題材として「日食」等を扱ったりしている。言語活動は今回の改訂における重要な部分であり、経験したことを記録・報告する活動、相手を説得するために説明を述べ合う活動等、言葉として表す活動を国語では重点を置いている、と回答

委員が

選定された教科書と他の教科書ではどのくらい差があるのか、と質問

指導課長が

それぞれ特徴がある中で、よりよい教科書を調査員が選定した結果、配布資料のような

結果となった、と回答

教育長が

文部科学省の検定を通っているため、どの教科書も優れているが、調査員が研究している中で、より特徴的で、地域の子ども達に合った教科書が選定された、と発言

委員長が

継続性や地域の特性なども選定の基準になっている。千葉県教育委員会から通知されている「選定にあたっての観点」がより特徴的なものが選定されている、と発言

委員が

国語と書写では同じ発行者を選ばなければならないようなことはあるのか、と質問

指導課長が

そのようなことはない、と回答

委員が

地理について、活字や図表の大きさが特徴になっているが、他の教科書はどのようなになっているのか、と質問

指導課長が

造本がA B版でゆとりのある大きさなのは1社のみで、他はB版であった、と回答

委員が

領土の取扱いはどのようなになっているのか、と質問

学校教育部長が

北方領土、竹島問題についての記載がある、と回答

委員が

歴史について、いつからいつまでを範囲としているのか、と質問

指導課長が

人類の誕生から、環境問題等、現在に至るまでを取り扱っている、と回答

委員が

授業時間の関係で高校入試の範囲が終わらないようなことはないのか、と質問

指導課長が

授業の進め方として、歴史の学習が終わってから公民の学習に入るので、歴史の学習が終わらないようなことはない、と回答

委員が

過去の戦争などに対する姿勢はどのようになっているのか、と質問

指導課長が

文部科学省の検定を通っているので、政府の考え方を扱っているが、教科書の中身を教えるのではなく、教科書を使って生徒に考えさせることが重要と考えている、と回答

委員が

公民について、公民は現在の社会について学習するが、現代的な問題を取り扱っているか、と質問

指導課長が

新しい問題として、臓器移植に対する自己決定の問題を取り扱っていたり、インターネット上の人権侵害を通して、生徒に考えさせる構成になっていたりする、と回答

委員が

歴史や公民の人権問題についてはいろいろな問題があるが、日本人として大事なものである。教師の力量も問われてくるので、研修もしっかりできるようにしてほしい、と発言

委員が

現在の問題として、原発や放射能に関する記述はあるのか、と質問

学校教育部長が

エネルギー問題として原発の他、太陽光や風力発電等について触れられている。原発の事故そのものの記述はないが、授業で取り上げることはあると考える、と回答

指導課長が

発行者から、今回の震災を受けて、自衛隊の活動等の箇所を差し替えたいという連絡も受けている、と回答

教育長が

今後、いろいろな教科で震災についての内容を扱う可能性がある。特に放射能の問題については早急に学習する時代が来るのではないかと、と発言

委員が

地図の特徴はどのようなところか、と質問

指導課長が

鳥瞰図を使って表したり、日本列島図に見開き3ページを使ったりして大変見やすく、生徒も理解しやすい作りになっている、と回答

委員が

数学の特徴はどのようなになっているのか、と質問

指導課長が

かかわり、まなび、説明し、伝え合う活動を意図的に設定し、数学的な見方・考え方、既習事項との関連、思考・表現面もバランスよく取り入れている。また、巻頭のノートの取り方、既習事項との関連、スパイラルによる学習やふりかえり、発展的な問題の配置を工夫するなど、個々の能力に応じた構成となっている、と回答

委員が

スパイラルとはどのようなことか、と質問

指導課長が

内容を既習の事項に結び付け、何度も繰り返しながら、次の学習にステップアップしていくようなことを表現している、と回答

委員が

理科について、従来は第一分野、第二分野に分かれていたが、それを統合したのはなぜか、と質問

指導課長が

内容の領域では今も第一分野、第二分野があるが、教科書を何冊も持つ必要がなくなることと、第一分野と第二分野を関連させて学ぶことができるため統合した、と回答

委員が

今回の改訂で新しく学ぶことになった内容は何か、と質問

指導課長が

今回の改訂により、中学3年生で放射能について学習するようになった。チェルノブイリの事故についての記述もあり、人体への影響にも触れられている、と回答

学校教育部長が

放射線測定器を使用し、自然界の鉱物から出る放射線量の測定することや、放射線と人体といったところが今回の改訂で新しく加わり、テレビ等で取り上げられている半減期といったことにも触れられている、と回答

委員が

音楽について、日本の伝統的な音楽についても取り上げられているのか、と質問

指導課長が

音楽一般では日本の伝統音楽や、童謡について扱っており、器楽でも琴を用いての演奏を扱っている、と回答

委員が

子ども達がギターや琴などを実際に触れて学習できるのか、と質問

指導課長が

全員分の楽器はないが、琴や尺八といった楽器に触れることができる、と回答

委員が

クラス対抗の合唱大会等は音楽の授業の取扱いになるのか、と質問

指導課長が

音楽の時間に合唱として取り組む部分と、合唱大会にむけて各クラスで取り組む部分がある、と回答

委員が

美術について、1年生の教科書は1冊で、2・3年生の教科書は1冊にまとまっているのはどのような理由からか、と質問

指導課長が

2・3年生で扱う内容がはっきり決まっているわけではないため、各学校の生徒に合わせて弾力的に扱うことができる、と回答

委員が

実際に美術館に行って、鑑賞するようなことはあるのか、と質問

指導課長が

学校の判断で校外学習の中で行くことは可能だが、授業時数的に美術の時間で美術館に行くのは難しい、と回答

委員が

保健体育の授業時数はどのくらいあるのか、と質問

指導課長が

保健体育の授業は週3時間、年間105時間あり、その中で教科書を使った理論としての体育の授業を1年間で3時間、3年間で9時間行い、保健の授業は3年間で48時間行う、と回答

委員が

技術・家庭について、授業は男女共通に行うのか、と質問

指導課長が

以前は別々であったが、今は男女一緒に授業を行っている、と回答

委員が

英語の特徴はどのようなところか、と質問

指導課長が

小学校でも英語の授業が始まったことで、小学校からの繋がりを重視した構成になっている、と回答

委員が

日本人は読み書きができて会話も苦手と言われているが、授業ではどのように取り扱うのか、と質問

指導課長が

外国人の講師を活用し、会話にも重点を置いて授業の展開をしている、と回答

委員が

放射能の問題等は社会や理科といった教科で扱うので、共通した考えの下、教科によって矛盾がないようにしてほしい、と要望

委員長が他に質疑なしと認め、採決にあたり、参考意見として、所用により退席した委員からは、教科書展示等の際、事務局からの説明を聞いており、採択することを承認する旨、報告を受けている、と説明

採決の結果、議案第26号は全員賛成で原案どおり可決された。

委員長が平成23年習志野市教育委員会第2回臨時会の閉会を宣言